

## 障がいのある妹、のんちゃん

羽島市立中央中学校一年 遠嶋 瑠輝

僕には、五才の妹がいます。名前は、のえるといいます。僕が小学二年生の時、妹は一才になったばかりで、やっと歩けるようになった頃、高熱を出して、そのままけいれんを起こし、意識がなくなり救急車で運ばれました。意識が戻った時は、もう以前の妹ではなく、手も足も突っ張って、喋る事も出来ず、口には人工呼吸器を付けて、たくさんのチューブが手足に付いていて、まぶただけをゆっくり動かす事が出来る、全く違う妹になっていました。病名は脳性マヒです。長い入院生活から家に戻ってきても本当にお世話が大変で、口から御飯も食べれず、お水も飲めず、座る事も喋る事も何も出来ず、お父さんやお母さん、お兄ちゃんと僕で面倒を見ていました。

あれから四年経つ今では、口からのチューブも外れ、御飯も口から取れるようになり、全くなかった表情も出て来ました。僕が笑うと、のんちゃんは笑います。お兄ちゃんと僕がケンカすると、のんちゃんは泣きます。上手く喋る事は出来ないけど、一生懸命、声をアアアウウウ出します。欲しい物があると、それを取ろうと、ほふく前進みたいな格好をして、手で少しずつ進みます。歩く事は出来ないけど、週に一回大垣市民病院で、これ以上筋肉が固まらないようにリハビリをします。眠る時も薬を飲まないで神経がずっと高ぶってる為眠れません。

毎日、のんちゃんの気晴らしと、脳への刺激があるかもしれないから。と親は外に連れて行きます。その時、バギーという車イスみたいなベビーカーみたいな乗り物にベルトが何個も付いたヤツで、のんちゃんの体を固定して外出します。とても重くてお母さん一人では大変なので、いつもお父さんとお母さん、それに三才になったばかりの弟の四人で外出します。きっとのんちゃんも家にばかりいるより楽しいと思うけど、僕が見るからには本当に大変そうです。

いろんな所にのんちゃんを連れて行くと、よく周りの人に、かわいいね。と言われるけど、あれ？何？立てないの？喋れないの？って言ってるみたいに変な顔をしながら不思議そうにしている人が沢山います。僕はそんな時嫌～な気持ちになります。僕にとったらか

わいい五才ののんちゃんなのに・・・って。どこへ行ってもそういう事があるけれど、みんなに分かって欲しいな。とよく思います。人とは違うけど、一生懸命頑張ってるんだよって。みんなと同じように笑うんだよ。って。みんなと同じように遊びたいんだよ。って。

声を出してちゃんと喋れないけど僕のはのんちゃんの顔を見ていると何が言いたいのか分かります。だからみんなもそういう子供達と遊んだり、分かろうとして欲しいと思います。みんな同じ人間なんだよって。

今は、弟が電車に乗るのが大好きで、よく一緒にお出かけをするけど、羽島駅はバギーで降りるスロープもエレベータも無くて、お父さんが重いバギーとのんちゃんを抱えて降りています。家はお父さんが居るから、そうやって抱えて持つてるけど、そうじゃない人は、こうやって降りる事が出来ずに困ってる人が沢山いると思います。だからもっともっと、みんなが楽しく暮らせるように、健常者も障がい者もみんな笑顔になれるように、やらなくちゃいけない事が沢山あると僕は思います。

公園に行ってもそう思います。のんちゃんに乗れるような遊具がなくてかわいそうです。家族みんなで遊園地に行っても、のんちゃんはずっとバギーに乗っています。市民プールにも行けません。大好きな温泉も行けません。映画館も音が大きくて泣いちゃうと周りの人に迷惑を掛けるから行けません。御飯屋さんも場所を選ばないと行けません。障がい者の駐車場もよく、歩ける人が使ったりすると、止められなくて困ります。服屋さんに行ってもなかなか着させれる服が無くて困る。ってお母さんは言います。もし、地震が来て、避難所に逃げなくちゃいけない事があっても、家みたいに障がいを抱える子がいたら、行きたくても行けないからどうしよう？とお母さんは言います。

僕は、のんちゃんが倒れてからこの四年間、いろんな事を経験して分かった事があります。だからみんなにも本当にこういう事をもっと理解して、困っている人がいたら、助けてあげたり、喋りかけたりして、みんなが笑顔になれるようにして欲しいと思います。

みんな一人一人が同じ命なんだと思います。

僕は障がいがあっても、のんちゃんが大好きです。

のんちゃんの笑顔は、最高にかわいいです。